



「つなぐ」～物事を、点から線へと結びつけようと努めること～

ロンドンオリンピックで活躍した女子サッカーチーム「なでしこジャパン」、女子バレーボールチームなど、集団の力を向上させて、みごとな成果を上げた例を目の当たりとした。彼女らは日頃の個人的な力量アップとともに、周囲と協調したり時には議論しながら、全体の組織力を更に向上させていくわけである。物事は、一人ではどうにもならないこと、集団の特性を生かして成果を上げていくことができると言われている。個人を全体へ、点を線へと結びつけるのである。宣問あや主将は、公私ともにチームを時には盛り上げ、時には引き締める優れたリーダーだと言われている。たぶん、日頃から自身がかつてそうであったように、小柄で非力な短所をいかに長所に変えていくか、きめ細やかな配慮とともに、縦横無尽に周囲の空間を結びつけ、つなぎ止めていることの意義を強く認識していたに違いない。この選手の発想はここにあると思った。教育の分野でも、「つなぐ」はキーワードである。学校と地域との連携といったこと、連携をキーワードにおしすすめられていることは多い。

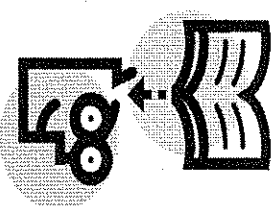
よく「つなげたい」「つなげる」という表現方法が用いられる。私個人は、この言い回しが好きではない。少し他人任せ・運命任せで受動的な要素がうかがえるからである。もっと主体的・能動的につかみとりたいではないか。もっと意図的に部分と部分とを結びつけたいではないか。こう思うと、「つなぐ」という言葉が、いかにも良質な言葉に思えるのである。

ぜひ、みなさんは、これから自分自身と他人を「つなぐ」こと、今の自分と理想の自分とを「つなぐ」こと、受験でいえは知識と知識を「つなぐ」ことで問題解決に至ること、様々な角度から物事と物事とを「つなぐ」ことを通じて、自分自身の新たな境地を開拓して欲しく思う。

■小論文ポイントアドバイス 『観点』を決めるということ

問題 「今からあなたは無人島に連れていかれます。そこには7つだけ物を持っていくことができます。無事帰ってくるために、何を持っていくますか。」

注意：実在するものに限る。単機能(複数の機能をもつ物は駄目)



さて、あなたは何を持っていくますか。思いつくままに羅列し、周囲の意見を取り入れつつ、よりよいものを選択するという考えもある。

ただ、もっと有用なのは、「観点」を決めるということ。生きていくため、日常には「衣食住」という言葉もある。①衣、②食、③住、といった観点から、物事を整理してみる。

解答例：以下、「衣食住」と、加えて「守」「助」という観点を置いた。

① 「衣」から	… 服 (防寒着として)
② 「食」から	… 水 (生命維持に不可欠)、塩 (必要な成分)、缶詰 (長期に保存できる非常食として有効)
③ 「住」から	… テント (風雨や外敵、害虫から身を守る最低限の住まいだ)
④ 「守」から	… サバイバルナイフ (自己防衛として必須アイテムか)
⑤ 「助」から	… 発煙発光筒 (自己防衛のみならず、他に助けを求める手段)

これは、3年対象に実施した「ブレゼンテーション力養成講座」のワーク。上のような観点をまず置き、それに当てはめたり、優先順位をつける形で選択している生徒がいた。物の考え方として、確かに力のある人の構えだと思ふ。参考にしてほしい。

受験までのカウントダウン ～ 目標・到達地点から逆算(後ずさり)する！～

◎あなたの受験日までのカウント数=あと()日。実質の学習時間はあと()分!